IWC
SCHAFFHAUSEN

「ジェラルドはインヂュニアを大変誇りに思っていました」

ジェラルド・ジェンタが長年連れ添った妻で、ビジネスパートナーでもあったエヴリーヌ・ジェンタが、この時計史上屈指の伝説の時計デザイナーの作業、創造性、情熱を回想してくれます。また最近、インヂュニア SLのオリジナルのデッサンが発見されたことが自分にとってどのような意味を持つのか、またどのようにして夫の残した仕事をジェラルド・ジェンタ継承協会という形で保存しているのかを語ってくれます。

あなたは、ジェラルド・ジェンタの妻として、私生活で非常に重要な役割を果たしただけでなく、事業の管理にも密接に関わってこられました。お二人が一丸となって仕事をする中で、何が一番楽しかったですか？

私たちにとって、密接に協力するということも、すばらしい結婚の要因となりました。一緒の生活を振り返ってみると、本当に大きな冒険でした。朝は工房に行って一緒に働き、一緒にお昼を食べ、一緒に帰宅していました。実際、あんなにうまくやっていけたのは、運がよかったのかもしれませんね。

いつも意見は同じでしたか？　ときどき言い争いもしましたか？

意見の相違があったとしたら、それは仕事に関することだけでした。ジェラルドは天才的で、すばらしい人でしたが、気難しいところもありました。私はもっと現実的でした。彼は正確に自分のビジョンにあったものをつくるという点で天才でしたが、それ以外のことはすべて私がやりました。彼がデザインしたモデルについて議論したことは一度もありませんが、彼は作品に対して非常に強い愛着を持っていたので、あまり売るのに熱心ではないこともありました。そうしたときは、口を出しました。工房の経営に当たっていたのは私で、請求書も給与も支払う必要があったからです。

あなたはお金を管理していて、事業としてやっていけるようにする必要があったわけですね。彼が現実的になるように仕向けなければならないこともありましたか？

いいえ。あの頃は、二人とも夢中でした。私たちは、あらゆるリスクを背負っていました。多くの人は知りませんが、ジェラルドはオートマタ（からくり人形）や大きな置時計もデザインしていました。そうした作品の注文を受けたわけではないのですが、そうする価値があると思って、そうしていたのでした。なかには、つくるのに4年かかったものもあります。多額の投資をしなければなりませんでしたので、大きなリスクがありました。

ジェラルド・ジェンタがオートマタをデザインしたというのは、初めて聞きました。

あれは彼のキャリアでも魅力的な一時期でした。一度、置時計に大きなサーカス盤を組み込んだことがありました。どの盤にも小さなピエロや道化役が乗っていて、オートメーションをスタートさせると、この小さな人形が音楽にあわせて動くのです。こうした彼の仕事の一面については、多くの人が知りません。こうした並外れた作品は、現在、世界中のさまざまな顧客のもとにありますが、むしろ博物館に収蔵し、誰もが見て鑑賞できるようにしたらよいと思うこともあります。

初めてお二人が出会ったのは、いつ、どこででしたか？第一印象はどのようなものだったか、教えていただけませんか？

1981年の夏、モナコの共通の友人の家で初めて会いました。彼は私の時計がぼろいと言い、私の言うことに一々反対しました。何て無作法な人だと思いました。私は時計をポケットにしまい、それについては、すっかり忘れていました。その後、その時計は洗濯機に放り込み、ばらばらになってしまいました。ですから、この男については、最初は非常に頭にきていました。

彼の性格を3語で表現すると、どうなりますか？

まず、創造的です。彼の創造性には、本当に驚かされました。2つめに、高潔さを挙げたいと思います。キャリアを通じて、ジェラルドが完全に正しいと思っていないことをしているのを見たことは一度もありません。たとえば、単に売れるようにするためにデザインを変更したことは、一度もありません。さらに、インスピレーションを受ける人だったと言いたいと思います。朝起きると、その日に自分が何をデザインしたいのかを知ろうとしました。彼は、インスピレーションは上からやってくると言っていました。信じられないことです。

IWC Schaffhausen · Baumgartenstrasse 15 · 8201 Schaffhausen, Switzerland
Phone +41 (0)52 235 75 65 · Fax +41 (0)52 235 75 01 · press@iwc.com · press.iwc.com

ジェラルドは、逆にあなたの性格を、どう表現したと思いますか？

たぶん、必ずしも良い意味ではなく、組織だって行動すると言うでしょう。また、少し強迫観念に取りつかれていると言うでしょう。そして、現実的だと。私の性格のこうした側面は、彼の芸術家としての生き方とバランスを取るために、強められる必要があったといえるでしょう。

彼の個性で、最も高く評価する点は何ですか？

ジェラルドは非常に愛情深い人でした。すばらしい人で、愛情深い夫でした。そして、好奇心旺盛でした。年を取っても、病気になっても、世界に対して強い好奇心を抱いていました。昔の話をしたり、どれほど昔がよかったかと話したことは一度もありません。以前デザインした時計について考えることは、一度もありませんでした。いつも、これからつくろうとする時計のことを考えていました。彼は新しいことに好奇心を抱き、私がばかげていると感じていたラップミュージックも好きでした。

ラップミュージックが好きだったのですか？

そうです。びっくりしましたよ。娘も、ほとんど信じられませんでした。その頃は娘が小さくて、「ママ、パパが聴いている曲を聴いたことある？」と言っていました。私はチャイコフスキーやベートーベンを聴いていましたが、彼はラップを聴いていました。「天才的だ。これが理解できないのか」と言うのです。あれから何年も経ちましたが、いまだに理解できません！

ジェラルドの仕事のやり方は、どのように描写できますか？

どこに滞在しているかによって、違う場所でデザインしていました。ロンドンの家では、工房で、いつも家の真ん中にいました。仕事中は、誰かが脇を通るのが好きでした。引きこもるタイプでは、まったくありませんでした。

彼のデッサンの技法の特徴は何ですか？

デッサンは、いつもまったく同じ方法でスタートしました。最初に、コンパスを使って、時計の原寸大の円を描きます。次に、垂直と水平の2本の線を引きます。そして、非常に細い鉛筆と絵筆を使って、水彩で非常に小さな細部まで時計を描くのです。いつも、円と2本の線から、完成した時計まで進むのです。この間、スケッチをすることはなく、中間のステップもありませんでした。

とすると、いつも時計を原寸大で描いていたのですか？

はい。デザインしたレディースウォッチのいくつかは、信じられないほど小さく、細かいものでした。時計技師用のルーペを着用し、強力な光源が必要でした。紙を破くのを見たことは一度もありません。こうしたことから考えても、デッサンを始める前に、彼の頭の中には完成した時計がすべて存在したと思うのです。

デッサンをするにあたって、お気に入りの場所や時間帯はありましたか？

ジェラルドは、いつでもどこでもデザインしました。休日には、昼食後、レストランの静かな場所に身を落ちつけ、デッサンを開始しました。作業の場所や環境について気難しいことはまったくなく、ひたすらデザインしていました。

描くのは速かったですが？ それとも、じっくりと時間をかけましたか？

速かったですね。まるで完成した時計がもう頭の中にあって、それを紙の上に移すことだけが必要な感じでした。ときには、1日の終わりに2つのデッサンを私に見せて、どちらが好きか尋ねることもありました。私が「右の時計」と答えると、「左の時計は嫌いなのか？」と言うのです。ですから、感想を伝えるときは、いつもそつなく、注意して口に出す必要がありました。

ジェラルドのインスピレーションは、どこから湧いてきたと思いますか？

彼は自然が好きでした。形と色はすべて自然の中にあると言っていました。また、建築や芸術が好きでした。しかし、他の人の時計は絶対に見ませんでした。自分の創造性が損なわれるからだと言っていました。自分の周囲の世界には、本当によく注意を払っていました。たとえば、誰かの家を訪問するときは、あたりを見まわし、見えるものすべてに注意していました。

彼は最初のデザインにこだわっていましたか？ それとも、たえず改良を重ねていましたか？

ジェラルドの芸術的ビジョンは非常に詳細で、デッサンはいつも最終的につくられる時計に非常に近いものでした。デザインを変更するとしたら、製造工程の間だけでした。ほとんどの変更点は、この段階で生じる技術的な問題に起因するものでした。

時計技師やエンジニアとの間で、やり取りしていましたか？

たえず、やり取りしていました。単に作品をデザインして、あとは忘れてしまう、というのではありませんでした。たえず工房のフロアを行き来して、製造工程にかかわるすべての人と話を交わしていました。自分の欲しているものを正確に知っていて、いつもプロトタイプを身につけていました。私たちは、彼が完全に満足してから、初めて最終的な作品をつくっていました。

あるインタビューで、彼は時計を身につけるのが嫌いだったと読んだことがあります。本当ですか？

本当です。場合によっては、時計をするように私がしつこく言う必要がありました。だって、バーゼルフェアの会場では、時計をしていたほうが見栄えがいいですからね。しかし自宅では、わざわざ時計はしていませんでした。

時計は彼の情熱のひとつにすぎなかったというのは、本当ですか？ ほかに、何に情熱を持っていたのですか？

絵画です。毎日、絵を描いていました。自分の時計を描くのが好きでしたが、可能だったなら、画家になりたかったのだと思います。また、もしイタリアに住んでいたら、たぶん自動車をデザインしただろうと言ったこともあります。ジェラルドは自動車が好きでしたからね。しかし、スイスに生まれたので、その代わりに時計をデザインした、というのです。彼が本当に愛していたのは絵画です。

好きな画家は誰でしたか？

ピカソに夢中でした。ピカソは絵を描き、彫刻し、多くの創造表現をマスターしていたので、彼にとって究極の芸術家でした。ですから、シンガポールでは、ジェラルドは「時計のピカソ」と呼ばれました。

キャリアを通じて、何個ぐらいの時計をデザインしたのですか？

わかりません。本当に知らないのです。私の資料室には、約3,100個の時計のデザインと約400枚の絵がありますが、しかし膨大な数のデザインが失われてしまいました。キャリアの初期の頃は、ジェラルドはスイスじゅうを旅し、デッサンを15フランで売っていました。キャリア全体で、何個の時計をデザインしたのかは、想像できません。彼がデザインした時計は、合計10万個に達するかもしれません。

IWCシャフハウゼンのためにジェラルドがインヂュニア SLをデザインしたときは、まだお二人は出会っておられなかったわけですが、IWCやインヂュニアについて話すのをお聞きになったことはありますか？

ジェラルドは、インヂュニアについて色々と話してくれました。IWCは、真摯な態度で独自のことをする、本物の時計メーカーだといって、ずっと好きだったようです。インヂュニアについても、大変誇りに思っていました。「インヂュニア」という名前は、IWCが巧みに成し遂げていることをよく表現していると、彼は感じていました。また、彼のデザインにIWCが反対しなかったことも、高く評価していました。IWCは、よく理解してくれ、そのまま実現してくれたのです。

最近、IWCはインヂュニア SLのオリジナルのデッサンを発見しました。それが本物であることを認定するために、立ち会っていただきましたが、それについて話していただけませんか？

デザインが見つかったとき、非常に興味深く拝見しました。私の資料室には、まったく残っていなかったからです。ジェラルドは、インヂュニアについて色々と話してくれました。IWCからデッサンを見せられ、初めて手に取ったとき、とても感動しました。コピーを取らせてもらい、今は資料室に保管しています。あれが発見され、ジェラルド・ジェンタ継承協会によって認定されたことは、大変光栄に思っております。

デッサンには、技法やスタイルの点で、彼特有の特徴が見られましたか？

紙、技法、色。彼が残した他のデザインをご覧になれば、すぐに同じであることがおわかりになるでしょう。あんな風に描く人は誰もいないでしょう。特に興味深いと思ったのは、リューズが八角形だったことです。ジェラルドは八角形が大好きで、結婚指輪まで八角形でした。まったく彼ならではです。

しかし、このデッサンでは、異なるサインが使われたようですね。

ええ。これは彼がキャリアの初期に使っていたサインです。晩年も、いつも違うサインをしていました。しかし、これは以前、見たことがあります。間違いなくジェンタのデザインです。

それでは、デッサンを手に持った瞬間から、もう本物だとわかっておられましたか？

ええ、完全に。最近、色々な人がジェンタのデザインを発見しているようですが、私は100%確実でないと絶対に認定いたしません。現在、有名な時計ブランド2社から、発見されたデザインが私の夫によるものかどうか問い合わせが来ていますが、確証がありません。こうした時計については、彼は一度も話したことがないからです。ですから、認定するつもりはありません。IWCに対しては、完全に私の意志で認定して差し上げるのですが。

新しいインヂュニア・オートマティック 40のレンダリングをお目にかけましたが、気に入っていただけましたか？

ええ、すばらしいものになるでしょう。最終的な時計を見るのが待ち遠しいですね。ジェラルドのデザインに非常に忠実だと思います。きっと夫も好きになったと思います。

2019年、ジェラルド・ジェンタ継承協会を設立されましたが、どういった理由からですか？

第一の目的は、夫の残してくれた芸術的な遺産を保存することです。時計業界の多くの有名人が力を貸してくれ、この考えを支持してくれたのを見て、感激しています。同時に、若い世代の時計デザイナーを励まし、インスピレーションを与えたいとも思っています。これを念頭に、現在、デザイン・コンペの準備を進めており、近日中に具体的なことをお知らせできればと思っております。

IWC Schaffhausen · Baumgartenstrasse 15 · 8201 Schaffhausen, Switzerland
Phone +41 (0)52 235 75 65 · Fax +41 (0)52 235 75 01 · press@iwc.com · press.iwc.com

IWC
SCHAFFHAUSEN

IWCシャフハウゼン

IWCシャフハウゼンは、スイス北東部のシャフハウゼンに拠点を置く、スイスの大手高級時計メーカーです。ポルトギーゼやパイロット・ウォッチなどのコレクションを擁するこのブランドは、エレガントな時計からスポーツ時計まで、あらゆる種類の時計を扱っています。1868年、米国の時計技師でエンジニアでもあったフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズが設立したIWCは、人間ならではの職人技と創造性、その最良の部分と最先端の技術および工程とを組み合わせた、時計製造に対する独自のエンジニアリングで知られています。

150年以上にわたる歴史の中で、IWCは精巧かつ丈夫で使い勝手のよいプロ仕様の計器時計や、複雑機構（とりわけクロノグラフとカレンダー機能）を組み込んだ時計をつくり、高い名声を得てきました。チタンやセラミックの採用の先駆者であるIWCは、現在、カラーセラミック、セラタニウム®、チタンアルミナイドなどの先進的な素材を用いた、高度なエンジニアリングと専門知識を駆使したケースも製造も行っています。

持続可能な高級時計の第一人者であるIWCは、責任をもって素材を調達し、環境への影響を最小限に抑えるための努力を惜しみません。透明性、循環、責任という3つの柱に沿って、このブランドは何世代にもわたって長持ちする時計をつくり、責任をもって製品を製造、流通、修理するためのあらゆる要素を継続的に改善しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

画像はpress.iwc.comで無料でダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン
広報部門
Email press-iwc@iwc.com
Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja
Facebook facebook.com/IWCWatches
YouTube youtube.com/iwcwatches
Twitter twitter.com/iwc
LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen
Instagram instagram.com/iwcwatches_jp
Pinterest pinterest.com/iwcwatches